

## BSL-4施設稼働時の安全管理と情報公開

**住民委員** 安全管理施策を十分に作っても、実験者や管理者に徹底できなければ意味がないのではないかと？

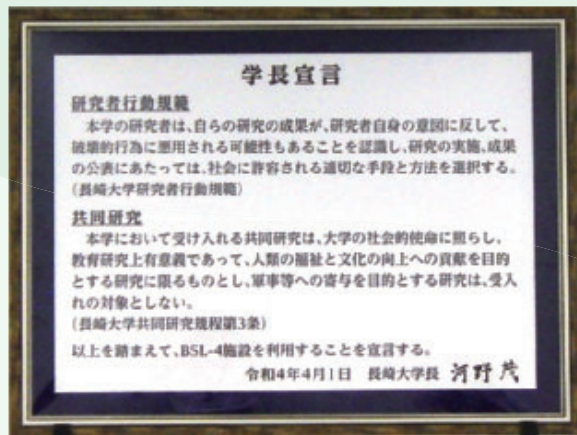
**大学**

1. 国の厳しい法律基準に従った利用/本学施設の中で最も厳重な安全管理体制を確立します。
2. ヒューマンエラー防止対策を徹底します。
3. 緊急事態対策の準備を徹底します。
4. 施設利用状況を地元へ情報共有します。
5. 軍事目的利用は大学として認めません。

**住民委員** 施設利用状況を情報共有することは住民の安心につながると思う。

**住民委員** 長崎大学長宣言で、軍事等への寄与を目的とする研究は受け入れの対象としないということを明確にし、BSL-4施設の玄関に掲示することを決定されたことは、高く評価する。

学長が署名した宣言文を実験棟 (BSL-4施設) とセンター本館のエントランスにそれぞれ掲示。



**住民委員** 緊急事態への対応を想定した場合、市・県・大学の連携や役割、住民への情報の伝達手段をもっと明確にしてほしい。

**大学**

事態発生時の対応に関し、代表的なケース(自然災害等、病原体へのばく露、病原体の紛失・盗難)を例として、長崎県、長崎市及び長崎大学のそれぞれの初動対応、三者等の連携体制、伝達手段等について協議し整理を進めました。

**住民委員** 防災行政無線を使いつつ、野外スピーカーなど周辺に知らせることのできるツールを持つ必要があるのではないかと。

**住民委員** 必要に応じて情報を発信、とあるが、小さなばやでも緊急事態である。情報発信は例外なく行うべきだと思う。

**有識者委員** 細かく全てを発信しても耳慣れしてしまうおそれもある。発信のルールをある程度決めておくべきではないかと。

## 緊急事態の近隣住民への伝達について

**住民委員** 住民への伝達について、どのようなことを、どのような場合に伝えるのかを示してほしい。

**大学**

これまでの議論を踏まえて、「第一報」、「第二報」及び「収束した場合」における伝達に関し、発生を想定する事態ごとに、その対象、時期等の目安について協議し整理を進めています。

**住民委員** 周辺住民を中心に広く周知する第二報が重要。

**大学** 第二報は、(延焼など)周辺に影響を与える状況となる可能性がある場合に発信する。第一報は、進展するか進展しないかにかかわらず発生を限定してお知らせするものと考えている。

**住民委員** 第一報を受けて自治会長として何をすればよいのか。

**有識者委員** 第二報に備え、自治会ごとにルールを定めるというのが一般的ではないかと。

**住民委員** 自治会長の判断でそれをやれといわれると荷が重い。

**住民委員** いらぬ混乱を招かぬよう、第二報を待って、よいのではないかと。

**大学** さまざまなご意見を頂いたので、次回また整理したい。

## 地域との新たなコミュニケーション組織の検討について

**大学**

これまで感染症研究拠点整備に関する地域連絡協議会として意見交換を行ってきました。施設が竣工し、運用段階への移行を踏まえ、今後も引き続き地域の皆さまとのコミュニケーションを継続することを前提に、会の役割やあり方について、名称、目的、協議事項、委員構成、開催頻度等を協議し整理を進めています。

**住民委員** 近隣の自治会長が委員となるのがよいのではないかと。また学校関係者などは入れなくてよいのか。

**住民委員** 協議事項に、地域の理解が進むような情報公開のあり方の検討を加えてはどうかと。

**住民委員** 想定している開催頻度(年3回~4回程度)は適切かと思うが、事象が発生したときは必ず開催して説明するようにしてはどうかと。

**大学** いただいた意見を今後の検討課題としていきたい。

